



はゆまのすず

駅 鈴

く ほ た かお り
久保田香里作

さかもと
坂本ヒメミ絵

しゅっぱん
くもん出版

ときは天平。平城京と国々をいち早く結ぶ駅路があった。三十里ごとに置かれている駅家では、使者が、馬をかせ、休息をとる。そこで馬の世話や道案内をするのが駅子だ。小里は、近江国にある駅家の娘だ。女は駅子になれないといわれても、父のような駅子になりたいと、本気で思っていた。

小里は、見習いの駅使、若見に
はげまされ、まよいながらも自分が
進む道をさがしていく。

奈良時代の駅伝制のもと少女の成長を描いた疾走感あふれる物語。

